

世界遺産アカデミー認定講師 File No.19

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第19回はご夫婦で世界遺産検定マイスターを取得された世界遺産アカデミー賛助会員の横利絵子(まき・りえこ)さんです。

——世界遺産を楽しんでいただくために

自治体での世界遺産講座を担当することになったのは、2013年の秋からです。小田原市生涯教育推進委員会からお声がけいただき、全4回シリーズの市民講座を担当しました。当初は、世界遺産アカデミーでの3級対策ガイダンスを基にした講座内容を検討していましたが、担当者の方からは「難しすぎるので、とにかく脱線してください」とのこと。毎回「本日のテーマ」を掲げながら、どんどん話が膨らんでいく自由度の高い講座となりました。たとえば、「モン・サン・ミッシェル」の回では大天使ミカエル降臨を由来とする建築の始まりから、現地で

獲れるムール貝の美味しさ、有名オムレツが有楽町で食べられる話にまで盛り上がりましたし、「マチュ・ピチュ」を紹介した時はマテ茶を味わっていただきました。幸いにも、おおむね好評をいただいで、昨年は第2弾を実施。現在は今秋開講に向けて第3弾を準備中です。

小田原市での市民講座には神奈川婦人会館の事務長さんも参加されていて、この出逢いをきっかけに、昨年、神奈川婦人会館でも毎月1回、全12回の世界遺産の教養講座を担当しています。こちら講座内容を一任されているので、毎回のテーマを決めて、プレゼン用のパワーポイント・データを作成し、2時間きっちりお話しします。実は、それがかえって苦勞でもあります(苦笑)。また、全



縄文杉の前で記念撮影!

12回講座のうち、1回は日本の世界遺産に特化した内容を提案しましたが、欠席された方の振替授業ができないため、日本の世界遺産は毎月1、2件ずつバラして紹介することになりました。ちなみに、神奈川“婦人”会館が主催する講座ですが、男性大歓迎!平日昼間の実施とあって、退職後の50代、60代の男性が4割、女性が6割、参加されています。

もともと機械ものが苦手でDVD録画も分からない私ですが、講座を担当するにあたり、パソコン入門講座を受け、パワーポイントやエクセル、ワードなどの使い方を学びました。世界遺産講座の講師となるために、パソコン教室の受講生となるという面白い逆転でした(笑)。

世界遺産検定が始まったばかりの

2007年頃には、社団法人日本添乗サービス協会(TCSA)からの要請で、「試験対策講座」の公認講師を担当していました。現在は認定講師制度も確立され、私もいちから学習し直してマイスターまで進みましたが、当時は地域ごとに分けて世界遺産をガイダンスする連続講座でした。思い出されるのは、毎回最前列の同じ席に座って、積極的に参加されていた女性です。いつも10回は挙手されていて、本当に熱心な方でした。また、数年前に担当した藤嶺学園藤沢中学校での授業も印象深いものでした。真剣に質問する学生もいれば、授業を無視した無駄話はもちろん、熟睡している学生もいます。更には、教室内にボールが飛び、走り回る、喧嘩が始まる(苦笑)。男子中

学生たちを相手に、どのように授業を進めていけば良いのか。講師として成長させてくれた貴重な経験です。

——世界遺産の入口的存在として

世界遺産を初めて意識したのは、1987年頃。勤めていた会社を退職し、スペインのサラマンカ大学に留学していた時でした。1987年に『セビーリヤの大聖堂、アルカサル、インディアス古文書館』が文化遺産に登録され、翌年に『サラマンカの旧市街』が登録されました。旧市街中心に広がるマヨール広場では、祝賀イベントが連日開催されていました。これほど人々を熱狂させる「世界遺

産(に登録されること)」について、私は強い関心を抱いたのです。

留学以前、1983年にひとり旅で足を運んだ「サグラダ・ファミリア」は、1882年に着工開始され、ちょうど100周年を迎えていたにもかかわらず、重機も導入されておらず、ただ更地の上に立っただけのがらんとした空洞建築物でした。それから30年を経た一昨年。留学時代から姉妹のように親しくしているホストファミリーの友人に赤ちゃんが誕生したので、スペインまで逢いに行くと、サグラダ・ファミリアがかつてとは比べようもない壮大な教会に変貌していました。アントニ・ガウディ生誕100周年の2026年に完成予定だそうですので、約

10年後が楽しみで仕方ありません。

また、スペイン同様に、ポルトガルも想い出深い土地です。2012年に登録された『国境防衛都市エルヴァスとその要塞群』のエルヴァスは、星型要塞やちょっと変わった水道橋が趣ある田舎街。最初に訪れたのは留学時代で、スペイン国境を越えたところにあるアモレイラ水道橋に目を奪われて、足を留めました。街中を散策しようと駐車場を探したものの見つからず、路上に車を停めていたら、駐車違反を受けてしまいました。同行していた友人は、フランス滞在中の日本人。私はスペイン留学中の日本人。ユーロのない時代でしたから、持参通貨はフランとペセタ。罰金はエスクードで払わなけ

ればならず、車を取り戻すのに、ひと苦勞でした。

海外添乗員として世界各地の多くの遺産を巡った経験を色々な方々に伝えていくことで、感謝の気持ちを還元していきたいです。誰にでも受け容れられやすい、世界遺産の“入口”的な存在でありたいと思っています。何から始めて良いか分からない人たちに、楽しいスタートをガイドして差し上げたい。建築や宗教に特化したスペシャリストではない分、大雑把だけれど自然や文化、旅行など多彩な引き出しを持っていると評価されれば、嬉しいです。私は世界遺産のビュッフェとして、これからも頑張ります(微笑)。